

ハイライトよねやま 109

(財)ロータリー米山記念奨学会
2009年3月13日発行

1 寄付金速報 — 下期の寄付、先月と同様に健闘 —

2月までの寄付金は、前年同期と比べて6.27%増、約7,300万円の増となりました。普通寄付金が1.58%減、特別寄付金が10.64%増と、このような経済状況にもかかわらず、大いに健闘しています。先月号でもご案内しましたように、PETSや地区協議会で米山奨学事業を紹介していただくための資料をガバナーエレクト事務所宛にお送りしています。米山部門セミナー等で理解を深めていただくツールとしてぜひご利用ください。今後、広報活動にも更に力を入れていきますので、ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2 学友会がまた新たに誕生！ — 第2620地区 —

今年度2つ目の新たな学友会が第2620地区（静岡県・山梨県）で誕生しました。

約1年前から学友会設立に向けて組織作りをすすめてきた同地区では3月1日、静岡市内で学友会設立総会を開催。総会には板橋敏雄理事長が招かれ、米山記念奨学事業の将来展望と学友会組織の重要性について講演を行いました。会員となった学友は25名、うち18名が出席して会則の承認や役員選任がなされ、同日、顧壽智さん（中国/1995-97/浜松RC）を学友会長とする「第2620地区米山記念奨学生学友会」が無事に発足しました。



3月10日の学務・学友委員会で正式な承認を受け、米山記念奨学会の学友会は、国内に29(33ロータリー地区)、海外を含めると合計31となりました。国内で学友会がない地区は第2800地区（山形県）のみとなりましたが、同地区においても学友会設立に向けて準備がすすめられています。

3 台湾学友会が日本人対象の奨学金制度を設立

日本のロータリアンへ恩返しをしたい——。かつて米山奨学生として日本で留学生時代を過ごした台湾学友たちの熱い思いが、形になりました。台湾学友会（正式名称：社団法人中華民国扶輪米山会）が立ち上げた「日本人若手研究者対象奨学金制度」は、台湾の大学、大学院で学ぶ日本の若者へ奨学金を支給し、日台の絆を深める人材を育てようとするもの。学友の一人が「カウンセラー」となって台湾での留学生生活を支えます。奨学金の原資は、学友からの寄付で成り立っていますが、日本の岡山丸の内ロータリークラブからも「今回の奨学金プログラムのために」と、5万円の寄付が寄せられたそうです。

台湾学友会の阮允恭理事長は「企業に大きな寄付を頼めば基金は増えるが、それでは私たちの気持ちが飛んでしまう。一人ひとりが恩返しの気持ちで寄付を出し合い、実現することに意味がある。徐々にその気持ちを広げて、台湾全土に米山の花を咲かせたい。台湾学友会の活動は、さざ波のようであっても末永く続けていきたい」と、語ってくれました。

現在、米山記念奨学会事務局が窓口となって第1期生を募集しています。台湾留学を希望する方は、ぜひご応募ください（応募締め切り4月30日）。詳細は米山記念奨学会事務局まで。

奨学金	25,000台湾ドル/月
奨学期間	2009年9月から1年間
採用数	1人
応募資格	<ul style="list-style-type: none">30歳未満日本国籍をもつ日本在住者台湾の大学・大学院より2009年9月入学の入学許可書を6月末までに提出できる者
選考日程	応募締め切り4月30日。書類選考後、面接試験を実施。

4 音信が途絶えた学友との再会

せっかく米山奨学生としてお世話をしたのに、その後まったく連絡がない。そんな経験をされたことはありませんか？

これまでに4人の世話クラブを務めた第2570地区（埼玉県西北部）の秩父RCでも、昔の学友からは音信が途絶え、一抹の寂しさを感じていました。しかし昨年11月、台湾の姉妹クラブ、新營RCの創立45周年記念式典へ招待されたのを機に、秩父RCでかつてお世話をした台湾在住の学友2人へ連絡してみようという話が持ち上がりました。連絡は、奨学生が引き受けてくれました。



駆けつけてくれた黄さん(左)と翁さん(右)

当日、100 km以上離れた台北から駆けつけた黄文讚さん（1985-86）は、新幹線の中で「秩父ロータリークラブ」と書いた紙を掲げながら一行を探し歩き、再会を果たしました。また、翁慶宗さん（1979-80）も、1泊2日の旅程をつきっきりで案内。2人とも、「米山奨学生となり、ロータリアンからの応援がなかったら、今の私はありません」と、改めて感謝の気持ちを述べ、一行を感激させました。2人のカウンセラーは既に他界していますが、「せめて奥様に」と、お土産を託し、会員との別れを惜しみました。後日、同RC会員で地区の米山奨学学友委員長を務める井上豊氏が届けたところ、「30年も前のことなのに……」と夫人は感激しながら仏壇にお土産を供え、手を合わせたと言います。

井上氏は、「実際に会って、心にあった小さなわだかまりが溶けた。思い切って連絡して良かった」と、再会の喜びを語ってくれました。

5 米山学友の Jisong さんがCDデビュー

韓国出身の米山学友、徐知善さん（2007-08 / 昭和音楽大学大学院 / 大和RC）が1月21日、クラシカル・ポップス歌手 Jisong（ジソン）としてCDデビューを果たしました。

大学院でオペラを専攻した Jisong さんは、透き通るようなソプラノの美声の持ち主。在学中の2007年6月に国立競技場で行なわれた女子サッカー北京五輪アジア最終予選（日本 vs 韓国）で韓国国歌を斉唱するなど、その実力は学生時代から認められていました。今回のデビューは、昭和音楽大学とレコード会社 VAP との産学協同プロジェクトとして実現したものです。デビュー以来、ラジオ番組への出演やコンサート活動を精力的にこなし、4月18日（土）にミュウザ川崎シンフォニーホール（川崎市幸区）で開催される『かわさきアジア交流音楽祭』にも出演が決定しました。

詳しくは、ホームページ（<http://www.vap.co.jp/jisong/>）をご覧ください。



Jisong さんからのメッセージ

ロータリアンの皆さまへ こんにちは。2007年度ロータリー米山記念奨学生のジソンです。米山奨学金のおかげで、声楽の勉強に励むことができ、念願だった歌手としてのメジャーデビューも果たしました。これからも日本と韓国の懸け橋になれるように頑張りますので、応援よろしく願いいたします。